

宇城教育事務所の分析結果と今後の取組

1、成果及び課題

(1) 成果

- 教科の調査の結果から、小学校において、国語・算数ともに全国平均正答率を上回った。また、中学校においては、国語・数学で全国平均正答率を下回ったものの、令和4年度と同調査結果からの改善が見られている。
- 質問紙調査の結果から、「【参考指標1】授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」「【参考指標2】家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の質問項目で、小学校において肯定的に回答した児童の割合が、全国の肯定率には達していないものの、令和3年度から継続して上昇しており、改善が見られている。また、学校質問紙調査における「学習指導において、児童（生徒）一人一人に応じて学習課題や活動を工夫しましたか」の質問項目では、小・中学校ともに肯定率100%であり、誰一人取り残さない学びの保障に向けた取組が管内各学校で推進されている。

(2) 課題

- 教科の調査の結果から、中学校において、数学・英語で全国の平均正答率を大きく下回った。
- 質問紙調査の結果から、児童生徒質問紙において、話し合う活動で自分の考えを深めたり広げたりすることや、発表する機会で自分の考えを伝えるために工夫すること等に課題が見られる。また、これらの質問項目で児童生徒と学校との調査結果に差が見られている。中学校においては、家庭学習の時間に関する質問項目で、家庭で2時間以上学習に取り組む生徒の割合は、全国の値を大きく下回り、家庭学習の習慣化に課題が見られる。

宇城教育事務所の分析結果と今後の取組

2、今後の重点取組

【具体的内容】

- 宇城地区学力向上に向けた重点取組の更なる推進
 - ①「子供を学びの主体」とした授業づくり
 - ②個に応じた指導の充実
 - ③家庭学習の質の向上
- 授業における児童生徒が自分の考えを表現する活動（対話・振り返り等）の充実に
に向けた取組の推進
 - ①話し合い活動等の目的を教師と児童生徒で共有
 - ②児童生徒の表現や活動等への教師の価値付け 等

【場面及びスケジュール等】

- 9月の教育長会議、校長会議等で周知を図る。
- 9月以降の学校訪問、スクール・アシスト、ステップ・アップ研修等で指導・支援を行う。
- 9月から11月の間に、宇城地区学力向上ワーキング・グループメンバーによる公開授業を国語、社会、算数・数学、理科、英語において実施し、授業改善の方向性や手掛かり等を示す。